

令和6年度ひとめぼれ栽培ごよみ

監修/大分県西部振興局
日田市農業再生協議会
発行/JAおおいた
西部管農経済センター・農産部農産課

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育過程	苗をつくる			稲の体をつくる						穂をつくる			米をつくる			収穫			土づくり	
水管理	育苗時の灌水は午前中に必ず行う			活きまで灌水			間断灌水			無効分げつ防止 中干し 1株16本〜17本程度に分けついたら中干しの開始 田面に小さな割目と足踏がつく程度			間断灌水			早期落水は収量品質低下をまねくので収穫作業に支障のないかきり刈取10日前まで間断灌水を行う。				
施肥の時期	元肥						穂肥						※出穂20日前(幼穂長1cm程度するとき)						「秋起こし」 稲刈り後の田を秋のうちに耕す(気温15℃以上の時) 田植後に発生するガス害から苗を守る。ワラ分解キング・稲わらの腐敗分解を進める	

【理想的な稚苗】

播種後23日〜25日
葉数2.5葉

【育苗のポイント】

1. 種子更新・塩水選
種子消毒の励行
2. うすまぜの徹底
1.5割(150g)
3. 徒長させない
(くたくすんぐり苗)

防除

種子消毒

混用
SMI-MONILORAL
1000 200倍

※おみ枯細菌病・苗立枯病・いもち病・いもち病(シメシメ)・ウツギ病

箱施薬

フーンゼクテラ箱粒剤(50g/箱)
防人(さきもり)箱粒剤(50g/箱)

※規定量50gを施用しなくとも効果が著しく低下します。

本田防除

2. Zポル1000(100g/100a)
Zポル1000(100g/100a)
Zポル1000(100g/100a)

※出穂10日前(幼穂長1cm程度するとき)

播種までの作業

1. 塩水選
塩水の濃度を新鮮な卵で調べる
塩水選後良く水洗する
2. 種子消毒
①SMI-MONILORAL 20ml ②テクリドCフロアブル 100ml
※網ネット浸漬は流水時よくゆすり、薬液が中心まで浸水するようにする。
3. 浸種
新しい水に、静かに入れる

約13kg(1斗)の種が消毒できる

「苗立枯病」について

厚播き、過湿、床土の通気不足等、高温と低温を繰り返す育苗管理に発生しやすい。また発生してからの適切な防除薬剤は今のところないため種子消毒を必ず行う。

●カメムシの効率的防除

石垣や陸棚の多い圃場で発生が多い。近接圃場との同時防除が効果的である。被害軽減のため圃場周辺の草刈は穂ばらみ前に行う。

省力型(一発肥料)

肥料名	施肥量	成分量		
		N	P	K
土壌改良材	ハイグリーン または ミネラルG	45		
元肥	超一発DX(80日)	4.0	4.8	4.0
成分計		4.8	4.0	4.0

償行型(元肥+追肥)

肥料名	施肥量	成分量		
		N	P	K
土壌改良材	ハイグリーン または ミネラルG	45		
元肥	化成肥料12-18-14	30	3.6	5.4
追肥	化成肥料16-0-16	15	2.4	2.4
成分計		6.0	5.4	6.6

日田式循環型農業の概念図

稲の主要病害虫及び雑草

苗立枯病

いもち病

紋枯病

おみ枯細菌病

ホタルイ

ウリカワ

コナギ

稲こじ病

イネシシガレセンチュウ

ワンカ類

コブノメイガ

カメムシ類

クモヘリカメムシ

フタオビコヤガ

除草

区分	薬剤名	使用法(10aあたり)	使用時期	備考
初期剤	メテオフロアブル	500ml 灌水 3〜4日間	移植前10日までまたは移植後〜ノビエ1葉期(ただし、移植後30日まで)	原液灌水散布
	バッテリLX1キロ粒剤	1kg 灌水	移植時〜ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	灌水散布(田植機同時散布可) 一年生及び多年生雑草
	サラブレッドKAIフロアブル	500ml 灌水 3〜4日間	移植時〜ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	原液灌水散布 一年生及び多年生雑草
	ジャスタジャンボ	1袋(10個) 灌水5cm以上 5日間以上	移植1日後〜ノビエ3葉期(ただし、移植後30日まで)	水田に小包装のまま投入される 一年生及び多年生雑草
中〜後期剤	バサグラン粒剤	3〜4kg 落水 3日間保持	移植後15日〜55日	広葉雑草、コナギ、ウリカワ等
	バサグラン液剤	500〜700ml(140倍)		
	アレイルSC	500ml(200倍) 灌水または落水	移植後25日〜ノビエ5葉期まで(ただし、収穫45日まで)	ノビエ・水田雑草全般(ホタルイ多発田)(展着剤不要)
	トドMF乳剤	200ml(200倍) 灌水または落水	移植後14日〜ノビエ5葉期まで(ただし、収穫50日まで)	ヒエ専用
後期剤	トドMF1キロ粒剤	1kg/10a 灌水または落水(人取散による散布)	移植後14日〜ノビエ5葉期まで(ただし、収穫50日前まで)	ヒエ専用
	レプラス1キロ粒剤	1kg/10a 灌水	移植後14日〜ノビエ4葉期まで(ただし、収穫50日前まで)	水田一年生及び多年生雑草
	レプラスジャンボ	1袋(10個) 灌水	移植後14日〜ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)	ノビエ・水田雑草全般 水田に小包装のまま投入される

※初期除草剤と一発剤との体系処理により難防除雑草や多年雑草の防除に効果。
※ジャンボ剤は、風の強い日や過水田、水持ちの悪い水田では使用しないこと(業者防止)。
※アレイルSCの使用時期については出穂後15日前まで(業者防止)。

うまい米づくりのポイント

土壌改良資材の施用

【土壌改良資材(ハイグリーン・ミネラルG・ケイカル)は稲体、病除を丈夫にし倒伏軽減につながります。また、窒素の過剰吸収を抑えます。土改剤は堆肥との併用をおすすめします。】

深耕の実施

【作土の深さ15cmを目標 根張り良くなり、吸肥力が高まります。】

【堆肥の施用】

【完熟堆肥1.0〜1.5t/10aを施用 腐植が高まり、地力増強となります。また、肥料コストの削減にもつながります。】

トビロウカ対策

秋ウカは梅雨頃に大陸から飛来し発生源となり増殖する。稲の株元から養分を吸汁し、大量増殖する9月以降に坪枯れ等の被害を起す。

対策

- ① ピラサルトを含む農薬(防人など)を箱処理剤1箱あたり50gずつ施用する。
- ② 圃場の株元を注視し、10株当たり2頭以上の生息を確認した場合スタークル等で即時防除を行う。
- ③ 大分県や各県の病害虫発生予察を確認することに努める。
- ④ 防除を行う際は、薬剤が稲の株元まで届くように注意する。

スクミリンゴガイ対策

スクミリンゴガイ(2〜4kg/10a) 田植後、スクミリンゴガイを確認したら灌水状態(3〜4cm)でスクミリンゴガイを均一散布し7日間注水する。
※灌水、かけ流しはしない。

越冬貝を減らすポイント

① ジャンボタニは秋になると土中で休眠状態になり越冬する。耕起すること越冬する貝を土壌表面に露出させ寒気に当てたり、ロータリー耕運で貝を破砕する事で密度を下げる。
② 用水路内の貝の密度を下げる対策として水路の泥土除去を行う。

※令和6年度産米栽培管理日誌は裏面様式を御利用下さい。

●水田への農薬散布後は水管理を徹底しましょう。●農薬(毒物・劇物に属する)購入の際には、印鑑が必要です。